

---

# より良き企業市民を目指して・ガバナンス

---

タカラトミーグループでは、玩具を通じた新しい「遊び」の価値を創造することによって持続的な成長を目指しています。その前提として健全な企業活動を行うための指針を定め、社会的責任を果たすことで、すべてのステークホルダーから信任される企業となることが重要であると考えています。

# 事業を通じた社会への貢献

## 商品の安全品質

### 独自基準や社内外検査の徹底

当社グループでは、「安全で安心できる商品作りを環境に配慮して行い、世界のお客様に魅力のある良質なおもちゃを提供します。」を品質の基本方針として掲げ、安全品質の向上に取り組んでいます。具体的には商品のグローバル展開に合わせ、それぞれの地域ごとの法令、規制等を遵守することで各国における安全品質の確保に努めるほか、当社グループ独自の安全品質基準を設定し、より厳格な基準の設定によって事故の未然防止に取り組んでいます。さらにヒトへの有害性が懸念される「重金属・フタル酸エステル類」の管理については、外部検査機関での検査の実施に加え、社内の検査装置で鉛などの重金属の含有有無の確認や可塑剤（フタル酸エステル類）の分析を行っています。万一、商品に重金属・フタル酸エステル類が混入した場合は、混入原因を調査・改善後、新たに生産・検査を実施し、問題が無いことを確認した上で出荷することによって当該商品の市場への流出を防止します。なお、年1回全社員が一堂に会し、安全品質担当部門のリードのもとで商品の安全品質と管理について議論する場を設け、その重要性の認識と理解促進に努めています。



独自の検査装置を使用した社内検査

## 人材の確保・育成

### 持続的成長を実現する人材の確保・育成

当社グループでは、個人と組織が生み出す付加価値の最大化に向け、働き方の改革とワークライフバランスの実現に積極的に取り組んでいます。2014年8月には在宅勤務制度を導入し、育児従事者と介護従事者を対象に、在宅で働ける仕組みを作り、社員のモチベーションアップを図るほか、移動時間の有効利用やペーパーレス会議、業務効率化に向けたiPad導入なども推進しています。また当社では、厚生労働省が少子化対策を図り子育て支援など一定の基準を満たした企業を認定する「くるみんマーク」を取得しています。人材の活用・育成については社内の研修制度として、2013年7月から「経営塾」を開講し、8カ月間にわたり次世代のリーダー育成と創業100周年ビジョンの立案に取り組みました。また、発想豊かな会社とするための企画研修、海外展開や新たな事業展開に不可欠な多様な価値観を共有するための異文化コミュニケーション研修や、他社との共同実施による異業種企画研修などを実施しています。



「くるみんマーク」



ワークライフバランスを推奨する社内ポスター

### 環境

#### おもちゃ会社らしいカードゲーム型のエコ活動レポート

当社グループでは、地球環境カードゲーム「My Earth」とのコラボレーションにより、カードゲーム型エコ活動レポートを作成しています。冊子形式が主流の活動レポートに遊び心を加えることで、子どもたちがエコを“楽しみながら学ぶ”、“遊びながら気づく”ことを意図しています。また、小学校への出張授業、会社見学、各種イベント等で2013年度は約11,000人の子どもたちに配布し、環境問題と私たちができるエコ活動について、遊びを通じて理解してもらうことができました。

#### 資源循環型社会の形成のための、

#### 環境省と連動した2つのリサイクル実験

当社では環境省との連動のもと、遊び終わったおもちゃの回収・リサイクル実験「PLA-PLUS (プラプラ) プロジェクト」に参加しています。玩具業界で唯一参加している当社グループは、業界の枠を超えた社会実験に第一回から参加しています。第3回となる2014に店頭回収したプラスチック製品の総量は約3,200kgにもなり、新しいリサイクル技術のための実験にも使用されています。また、パッケージなどの容器包装ゴミを資源として有効利用する実験にも取り組んでいます。家庭ゴミのうち、容器包装は50%以上(環境省調査)を占めます。これらを使って実際におもちゃを成形実験し、まずは発色や安全性などの難しい課題の洗い出しを行いました。これらの実験は、子どもたちの未来のために、今後も継続して行っていきます。

#### 子どもたちへのおもちゃを通じた環境啓発活動

当社では、子どもたちにとって最も身近な“おもちゃ”を通じて、子どもたちの環境に対する意識の目覚めをお手伝いしています。タカラトミーグループが提案する「エコトイ」活動では、グループ横断のメンバーによる「エコトイ」委員会を発足させ、第三者機関の助言を得ながら、玩具を作るとき、遊ぶときなど玩具のライフサイクルに応じた環境配慮の基準を設定いたします。そしてその基準を1つ以上満たした商品を「エコトイ」として認定しています。

また、再生材料を使用したプラレールの商品では、おもちゃで初めて「エコマーク」認定を取得しました。子どもたちのエコへの関心や理解を深める取り組みに、業界に先駆けて着手している姿勢から、「第13回グリーン購入大賞優秀賞」や「エコマークアワード2012金賞」などを受賞しています。



My Earth Project LLCの設計・制作による地球環境カードゲーム



玩具業界の先駆けとして、プラスチック製品のリサイクル実験「PLA-PLUS (プラプラ) プロジェクト」に参加



日本環境協会の「エコマークアワード2012金賞」を受賞

## コミュニティへの参画及び発展

### 障がいの有無に関係なく楽しめる「共遊玩具」の開発

当社グループでは、1980年に障がい者専用玩具の開発を開始し、現在では障がいの有無に関係なく楽しめる「共遊玩具」として一般向けおもちゃへと発展し、その活動は玩具業界全体に広がっています。

共遊玩具には、視覚障がいに対しては、スイッチのON側に凸印をつける、動きや状態を音でも知らせるなどの工夫、聴覚障がいに対しては、音に加え、光、振動、文字、動き、絵などの要素でも遊びを盛り上げる工夫がなされています。

また、2014年には、聴覚に障がいのある人にも声で操作する玩具が楽しめるように、声を代行する既存アプリの機能強化への協力活動を開始しました。このアプリと連動させた当社商品「Hello! Zommer」は、今年度の「日本おもちゃ大賞」の共遊玩具部門で大賞（優秀賞）を受賞しました。このアプリが、今後、声を使うさまざまな玩具と聴覚障がい児やその周囲の健聴児をつなぐ有効なツールになることを願っています。



視覚障がいに対しスイッチのON/OFFを認識しやすくした共遊玩具。ON側に凸印がついている。



#### 共遊玩具のマーク

視覚障がいや聴覚障がいのある人でも楽しく遊べると認められたおもちゃについている「盲導犬マーク」と「うさぎマーク」

### 東日本大震災の復興支援活動

当社では東日本大震災で被災された方々に、おもちゃを通じて笑顔になっていただきたいとの思いから、被災地の自治体等が開催するイベントへの参加を通じて復興支援に取り組んでいます。

2013年5月には「こおりやまキッズ博」に参加し、震災後2年を経て大きな不安を抱えて生きる福島県の子どもたちを支援するために、県内外で暮らす家族が集う5月のゴールデンウィークにおもちゃで自由に遊び、心のストレス解消につなげるイベントに参加しました。

また同年10月には「第3回東北こども博」に参加しました。同イベントは2011年10月、子どもも大人もすべての人に笑顔をもたらすイベントを創りあげるべく、日本玩具協会が地元自治体などとの協力のもとで1回目を実施。3年目は「みんなに笑顔を」をテーマに、多くの子どもたち、家族の方々に来場いただきました。



2013年10月に開催された「第3回東北こども博」に参加

# コーポレートガバナンス

## 基本的な考え方

当社グループは、ステークホルダーの皆様の信頼に応えるため、持続的な企業価値の向上と透明性の高い健全な経営の実践を重要な経営目標としております。そのためには、経営効率化を図りつつ、経営チェック機能の充実、リスク管理／コンプライアンス体制を強化することが大切と考え、経営陣は一丸となってコーポレートガバナンスの充実に向けた取り組みを推進しております。

## 経営監視の仕組み

### 1. 社外取締役

当社では、2006年よりさらなるコーポレートガバナンスの充実を目的として、社外取締役を選任しております。現在社外取締役は5名で全取締役（10名）の半数にあたります。

### 2. 取締役の職務執行の体制

**a.1\_** 毎月1回の定例「取締役会」及び適宜臨時「取締役会」を開催し、グループ全体の基本方針・戦略の策定、重要業務の執行に関する決定及び業務執行の監督等を行っています。

**a.2\_** グループの業務運営管理を円滑かつ効率的に行うため、各統括本部ごとに「統括本部会議」を原則毎月1回以上開催し、経営の全般的執行に関する意思決定を機動的に行っています。各「統括本部会議」の重要決定事項は、「取締役会」または取締役・監査役で構成される「経営執行報告会」に、必要に応じて報告されます。

**a.3\_** 代表取締役の諮問機関として、社外取締役・監査役などで構成される「アドバイザリー・コミッティー」を設け、業務執行の有効性、財務の信頼性等に関する幅広い助言を求めています。

**a.4\_** 取締役会の諮問機関として社外取締役などで構成される「投資委員会」を設置して、重要な投資案件に関する評価・助言等を求めています。

**a.5\_** 代表取締役の諮問機関として、社外取締役・社外監査役などで構成される「報酬委員会」を設置して、各取締役の報酬額等の内容に係る方針につき提言・助言を求めています。

### 3. 監査機能

**a.1\_** 当社は「監査役会設置会社」にあたり、5名の監査役（内、4名が独立社外監査役）が法令に従い、監査業務を実行するとともに、各種の会議等を通じて経営の状態、事業遂行の状況、財務の状況、内部監査の実施状況、リスク管理及びコンプライアンスの状況等の報告を受けています。

**a.2\_** 監査役は、重要な意思決定及び業務の執行状況を把握するために、取締役会など重要な会議に出席するとともに、議事録、稟議書その他重要な業務執行に関する文書を開覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求めることができる体制をとっております。

**a.3\_** 監査役及び監査役会は、会計監査人、内部統制・監査部ならびにグループ会社の管理部門と監査上の重要課題等について意見・情報交換をし、互いに連携してグループ内部統制状況を監視しております。

## コーポレートガバナンスの実践

### 1. 執行役員制

当社は「執行役員制」を導入し、権限委譲と執行責任を明確化することにより、取締役会の方針・戦略・監督のもと、各担当部門における業務執行の迅速化・効率化を図っています。現在、7名の執行役員が業務執行にあっております。

### 2. 内部統制

#### 1\_コンプライアンス体制

「タカラトミーグループ行動基準」を制定し、全役職員が法令遵守はもとより、誠実かつ公正な企業行動を通じて社会的な責任を果たしていくことを明確にするとともに、コンプライアンス研修等を通じて役職員に周知徹底を図っております。コンプライアンス体制ならびにリスク管理体制の充実、徹底を図るため代表取締役を委員長とし、社外取締役/社外監査役などを構成員とする「リスク／コンプライアンス委員会」を設置して、リスク及びコンプライアンス上の重要な問題を審議し、その結果を取締役会に報告する体制をとっています。経営直轄組織である「内部統制・監査部」は、コンプライアンスの状況を監査し、随時代表取締役及び監査役会に報告しています。

#### 2\_リスク管理

「リスク／コンプライアンス委員会」ならびに「内部統制・監査部」により、内部統制と一体化した全社的なリスク管理体制を構築、整備しております。不測の事態が発生した場合には、速やかに「危機管理対策本部」を設置し、迅速かつ適正な対応を行い、損失・被害を最小限にとどめるとともに、再発防止対策を講じるものとします。環境ならびに製品の安全性に関しては、専任組織として設置された「社長室環境課」ならびに「安全品質統括部」を中心に、環境問題ならびに安心できる優良な商品を提供するプロセスの強化に取り組んでいます。



### 3\_グループ経営管理

グループ会社の非常勤取締役または非常勤監査役に、原則として当社役員または使用人が1名以上就任し、各社の業務執行の適正性を監視・監督しつつ、グループ全体でのリスク管理ならびにコンプライアンス体制強化を図るものとしています。グループ管理体制については、グループ会社管理の担当部署を置き、社内規程に基づき、各グループ会社特性、状況に応じて必要な管理・指導を行っています。

### 3. 取締役の報酬

役員報酬については、株主総会の決議により、取締役報酬額（定額報酬）は年額400百万円以内、監査役報酬額（定額報酬）は年額70百万円以内と決定されております。また、株主総会の決議によるストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等の額の上限は、各事業年度に係る定時株主総会の日から1年において、取締役は年額200百万円、監査役は年額15百万円であります。なお、各取締役及び各監査役の報酬額等は、社外取締役及び社外監査役からなる報酬委員会の審議・答申に基づき、取締役については取締役会決議により、監査役については監査役会の協議により決定しております。

### 4. 買収防衛策の導入

当社は、平成25年6月26日開催の当社第62回定時株主総

会において株主の皆様の承認（賛成比率：79.13%）を受け、当社株式の大規模買付行為等への対応方針を継続しました。本対応方針は、有事の際に新株予約権の無償割当て（以下「対抗措置」といいます）を行うことができる「事前警告型ライツプラン」です。

### 導入の目的

当社グループでは、今後も新しい遊びの価値の創造や製品品質の向上を図り、将来を担う子どもたちのために「健全な子ども文化の育成」を当社の使命として真摯に受け止め、その実現により「タカラトミー」ブランド価値の更なる向上を目指しております。そのため、当社株式を大量に買い付ける提案を受けた場合には、その買付者が、当社の創業理念や企業理念を尊重し、当社及び当社グループの企業価値ひいては株主の皆様共同の利益に資するような経営を支援するか否か、を慎重に吟味し、また当該買付者の提案する事業計画等の中身とその実現可能性・適法性、当社のステークホルダーに与える影響、当社及び当社グループの企業価値に及ぼす影響、及び当社の将来計画への関与等を十分に把握して、買付の合理性等を判断することが必要と考えます。

プランの概要：(<http://www.takaratomy.co.jp/ir/company/defense.html>をご参照ください)



宮城 寛映  
取締役（社外）

### 「社外取締役からのメッセージ」（宮城取締役）

私がタカラトミーの社外取締役に選任されてからすでに5年が経過しました。タカラトミーは、一言でいうならば、「すべての夢の実現」という素晴らしい企業理念を持って、それを実現しようと努力している会社だと思います。子どもたち、社員、株主、パートナー、そして社会というすべての人の夢の実現のために新しい遊びの価値を提供する、という企業理念をしっかりと守ることは、優れた経営と事業成果につながると確信しています。

タカラトミーの経営陣は5人の社外取締役及び4人の社外監査役を含めて、とても多彩な専門性と豊富な経験を有しています。CEOは社外取締役の意見に真摯に耳を傾け、企業経営においてそうした意見を反映させています。また社員のモラルも高く、同時にとても柔軟な姿勢で仕事に取り組んでいます。タカラトミーの合併やRC2の買収を経て、会社の規模は大きくなりましたが、企業理念の共有によって、それぞれ違った組織をうまく融合することができました。これからは、「第四の創業期」として大きな変革が求められますが、CEOとCOO2人のトップは企業理念を守り、様々な意見に耳を傾け、新たな経営戦略を策定し、柔軟性を持った社員とともに挑戦することで、変革を実現できると信じております。

引き続き社外取締役としての目でどんどん率直な意見を述べていきたいと考えておりますので、株主をはじめとしたステークホルダーの皆様には、じっくりとタカラトミーを見守り、応援してほしいと考えております。